

# 同期会だより

## 5期生 医学科卒後20周年記念同期会を終えて

同期会幹事 屋良 さとみ (5期生)

(感染症・呼吸器・消化器内科(第一内科))

H23年に琉球大学医学部医学科卒後20周年を迎えた、H3(1991)年卒、五期生の屋良さとみと申します。

時の流れは早いもので、医師になった喜びをしみじみと感じたあの日からなんともう20年も経過したとは、大変に驚きながらも感慨深く感じています。20年と口にするのがなんだか気恥ずかしい気さえます。。

昨年四期生の先生方を中心として、休暇の取りやすそうな7月の“海の日”の連休に同窓会総会を移し、卒後20周年記念と10周年記念同期会を同日開催にし、大勢の方にご参集頂く、というアイデアを実施して頂き、私達五期生もそれにのっとり、幹事として準備に取りかかりました。会場は一年前にはラグナガーデンホテルの方とご相談し押さえて頂きました。期日が近づいてからも二次会会場やその他細々とした相談にも親身になって頂きました。(同窓会が総会でずっとラグナガーデンホテルを利用し続けていることが、何かと便宜を図って頂けることにも繋がっているようです。)同期生への連絡に関しては、一年以上前より中部病院勤務の同期生の先生方お二人が“メーリングリスト”を立ち上げてくれましたが、なかなかうまく広められないまま時が過ぎていき少々心は焦り始めていったのは確かでした。“医者”という職業はやはりいつになっても皆さん各々多忙な状況は続いており、私ができる範囲での手順で準備するしかありませんでした。しかしそこでの強い味方が“医学科同窓会事務員の上原さん”でした!“南風”の記事と、半年前にはまず以前の先輩方と同様の“案内ハガキ”を出して頂き、約2ヶ月前には経費・手数料をお支払いすることとし“出欠確認の往復ハガキ”を名前ラベルまで貼って出して頂き、大変助かりました!そのお蔭で私は意外にも、誰にも一回も一本の電話連絡をすることもなく、先輩方のある学年の同期会以上か他の学年のそれに近い人数である41人の同期生が集まってくれました!(本土からも何人が駆けつけてくれて。。)(上原さん、ありがとうございます

いました!!)

五期生は今回、卒後20年目にして“初めての同期会”でしたので、いざ集まってみると皆感慨はひとしおで、懐かしさといった言葉に表せないくらいでした。大の40代が一挙元の“大学生”に舞い戻った様に皆様々に語り合い、20年前にタイムカプセルのように“鍾乳洞に預けた泡盛のケース(古酒)”の二升瓶を開け、お酒を酌み交わしながら語り続けました。幹事の私は始まる前は、会場を“3時間”予約として取った時間の間が持てるだろうかと心配もしたことがあったのですが、いざ始まってみると、誰一人それぞれでおしゃべりすることなくしっかりマイクの前の語り部に注目して熱心に聞き入った『各々の近況報告』を回すだけでも楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後に記念写真を撮り終わっても皆の懐かしさは尽きることなく、会場が閉まる時刻になるギリギリまで会場内のあちらこちらで語り続けていました。卒後20年経ち医者として勤務医だったり開業していたりそれぞれの職場で皆活躍されているけれど、“根っこは皆あの学生時代の6年間にある!”という気持ちになった数時間でした。卒後20年目にして“初めての同期会”だった我々が、集まってみれば皆「あ～来年もやりたいネ!それが無理なら“数年に一回”はやろう!」とのこと。。それから時間の許せる人は二次会に流れ(女性陣からは“あ～二次会があるなら、子供達にご飯作ってくればよかった～”という残念そうな声も聞かれ)懐かしく語り続けました。。直前に台風も近づき(本土からの数件のキャンセルが出た理由!),開催直前まで悩み多き幹事の私でしたが、上記の様な嬉しそうな・懐かしそうな・大切なものに再び巡り会えた様な皆さんの深い笑顔(ナント“記念写真”が全員、不思議なくらいのニッコリ明らかな笑顔で写っています!)に出会えて、“あ～幹事をして同期会をやっ

